

第 3 7 回東海村地域福祉計画推進会議 議 事 録

1. 日 時 平成 2 7 年 1 1 月 3 0 日 (月) 午後 2 時～ 4 時
2. 場 所 総合福祉センター「絆」ボランティア室 2・3
3. 出 席 者
- ・地域福祉計画推進会議委員
(富永委員長, 小野寺委員, 叶井委員, 河野委員, 井坂委員, 野上委員, 今橋委員, 松井委員, 相巢委員, 須藤委員, 大内委員)
 - ・アドバイザー 稲垣美加子先生 (淑徳大学教授)
 - ・事務局 芳賀補佐, 酒井主幹, 金田主幹, 小原澤主事

4. 結 果 (要点)

(1) 前回議事録の確認について (省略)

(2) 「第 3 次東海村地域福祉計画」副題 (案) について

- ・投票形式で, 副題案を絞った。そのうえで検討したが, 一つには絞れなかったため, 事務局に一任ということになった。事務局は, 他市町村の計画の副題と被っていないかを確認したうえで, 決定する。

(3) 「第 3 次東海村地域福祉計画」(第 2 稿) について

- ・事務局からは主に序論について説明した。
- ・会議では, P60 までご意見をいただいた。

(4) その他

- ・委員メッセージの提出期限を 1 2 月 2 1 日 (月) から変更し, 1 2 月 1 0 日 (木) とさせていただいた。

5. 結 果 (詳細)

○資料送付が遅れた件について, 事務局からお詫びした。

○県社会福祉大会 (11/17) で, 富永委員長 (県社協会長表彰), 河野委員 (県知事表彰) が表彰されたことを報告した。

(1) 開 会

(2) 委員長挨拶

忙しい中ありがとうございます。朝日新聞に「超高齢社会における地域社会のあり方」という記事があった。その中には、2つのことが書かれている。

- ①グローバル時代の国と地域のあり方
- ②大人の感性を持った地域社会を目指す

論語に「70にもなれば守るべき規範を破ることはない」という言葉があるように、超高齢社会とは賢い大人の多い社会のはずである。またアダムスミスは「人間は共感性を有する人々である」と言っているように、大人は他人の痛み思いを馳せて泣くことができる「共感性」を持っているはずである。人々の声に耳を傾け痛み涙し、救いを求めている人に手を差し伸べるこそが成熟した社会には必要であり、これからの地域社会をつくるには大きなポイントである。大人の感性を持った地域社会を目指す、超高齢社会とは「賢い大人の多い社会」のはずである。

今日は出来るだけ早く議事進行したいと思うので、よろしくお願いします。

(3) 稲垣先生挨拶

河野さん富永さん、表彰おめでとうございます。人生は一生勉強だなと思うところがある。数学の研究者は20代で数式を発見したらそれで一生食べていけるが、社会福祉の面白さは、一生涯、研究を積み上げていくことで、教育が洗練されていくところである。私は東海村で10年間に渡って仕事をしていく中で、皆さんに多くのことを教えていただき、私の教育・研究は豊かになった。みなさんの「賢さ」に育てられたことにまずは感謝申し上げる。

11月は児童虐待防止月間だった。先日も子どもが自宅の浴槽で溺死するというニュースがあったが、子どもに関するニュースは、あまりいいものがない。共感するには想像力が必要で、相手の世界はどんなものなのか、貧しさや苦しさとはどんなものなのか、想像して身をおいてみて、初めて共感が成り立つ。しかし、最近の母親は、何の悪意もなく、5センチ水かさあれば子どもがうつぶせになったときに溺死するという事に想像力がない。たかが5センチの水かさなら子どもを一人にしておいても大丈夫だと思ってしまい、悲劇が起きる。母親を責めずに、皆様の豊かなご経験から、想像力が欠如している若い世代の生き辛さに対して、共感的な理解を寄せていただきたい。

日本の子どもの貧困率は15%を越え、世界ワースト11位である。子ども達が未来に夢を持って暮らせるよう、またその子ども達が次世代を育むときに、危機に対して想像力を働かせることが出来るよう、知恵を伝承していただきたい。日本型福祉は、新しいものは取り入れつつ、地域性、民族性に回帰し、美しい伝統は守りたい。今後とも皆様にはよろしくご指導いただきたい。

○配布資料、差替え資料（資料3・4）の確認

○議題の入替えについて説明

(4) 議 事

①前回議事録の確認について（小原澤主事から要点の読み上げ，内容は省略）

②「第3次東海村地域福祉計画」副題（案）について

・投票形式で，副題案を絞った。そのうえで検討したが，一つには絞れず，候補の中に入っている共通ワードを組み合わせた合作案を作ったが，後は，事務局に一任ということになった。事務局は，他市町村の計画の副題と被っていないかを確認したうえで，決定する。行動を喚起するような副題にしてほしいという意見が出た。

【副題候補】

2	笑顔でつながる ^{しあわせ} 福祉プラン
5	福祉でつなぐ心と心
7	築こう つなごう 地域の和
9	支え合い 助け合いの心でつくろう地域の絆
1 2	昨日支えて 今日支えられ お互いさまの わが地域 (これまで子どもを育ててきた人も高齢になると誰かに支えられるようになる。だれもが自分ができることで地域福祉に参加し，お互いさまになればいいという意味を込めた)
その他	みんなが主役の ^{しあわせ} 福祉プラン 地域で育む福祉の輪（和） みんなで育む福祉の輪（和）
(合作案)	
お互いの（さま）の 心でつながる（支える） 地域の輪（和）	

③「第3次東海村地域福祉計画」（第2稿）について（酒井主幹から説明）

- ・前回会議でいただいた，小さな文言修正，グラフの強調，注釈追加については，既に修正済みである。
- ・また前回会議では，主に序論についてご意見をいただいたので，今回は，序論の修正箇所について説明する（資料3を用いて説明した）
- ・序論は，第2次計画の内容を継承しつつも，イラストやイメージ図を多用し，分かりやすい記載に努めた。また，読者へ地域福祉活動への参加を呼びかける表現を用いた。
- ・圏域や協働，第3次計画の施策について紹介するページを設け，今後は，圏域や協働を意識した取組みを重視し，村が住民の地域福祉活動を支援していくことを理解してもらえるような構成にした。
- ・序論の大きな変更点は，「村内で活躍するインフォーマルサービス」を資料編に持っていたことである。これで，住民の皆さんの活動を記録として残しつつ，序論のコンパクト化を図った。
- ・序論の最終章は，「地域福祉活動の楽しさ，人生に与える影響」といった内容でまとめた。

【ご意見・序論】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
3	自分らしく <u>安心した</u> 生活を送ることができるよう	自分らしく安全で安心した生活を送ることができるよう（委員）
3	地域に <u>住む</u>	地域に <u>暮らす</u> 今後、地域福祉の支え手は、村内の住民だけは枯渇してしまうので、村外から仕事や学校で来ている人も想定していかないといけない（稲垣先生）
4	注釈番号が小さく見にくいため、もう少し大きく、分かりやすくしてほしい。	第5次総合計画の注釈の記載方法と同様に、赤字の※印をつける。
5	（２）住環境の変化 「知りたくもない」といった <u>状況</u> が珍しくなくなりました。	「知りたくもない」といった <u>考え方が残念ながら</u> 珍しくなくなりました。 （委員）
5 ～ 6	（２）住環境の変化 また生活も便利になり…	「また、生活も便利になり…」として、「生活」という言葉が次項に行くようにする（委員）
6	（４）家族の形の変化 <u>孤独感を感じたり…</u>	<u>孤独を感じたり…</u> 、 <u>孤独感が生じたり…</u> 二重形容は全体的にチェックする（委員）
6	（１）制度の狭間（制度と制度の谷間）で苦しむ人々 国の法律や制度がそうになっている <u>ため仕方のない面もありますが、</u>	国の法律や制度がそうになっている面もありますが、 「仕方のない」という決めつけは良くない（委員）
8	（７）サービスに関する情報が届かず、 <u>サービスにアクセスできない人の問題</u>	<u>うまくサービスを利用できない人の問題</u> 横文字は多用しない方がいい。また、福祉が措置制度から契約制度に移行し、利用者は自分でサービスを選び契約しなければならなくなった。そのため「情報弱者」「契約弱者」が生まれ、サービス利用から漏れてしまっている（稲垣先生）
8	（８）「地域移行」に伴う問題 …、地域社会との関係づくり <u>一</u> など、たくさんあります。	…、地域社会との関係づくりなど、たくさんあります。 「一」は不要だと思う（委員）

【ご意見・序論】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
9	原子力災害	「人的災害」という言葉がよいのではないかと（委員） 第5次総合計画の記載方法に倣うことになった。
9	自然災害・原子力災害（非常時）へ備えるための「地域福祉」 「非常時」という言葉はいらないのではないかと（委員）	・「防災・減災対策と地域福祉」というタイトルがよいのではないかと（稲垣先生） ・自然災害が起きたときに派生してくる被害を少なくするには地域福祉が有効である。 ・第5次総合計画との整合性を図り、差異がないようにしてほしい。 ・2段落目の後には、東日本大震災後の住民の取組み（みんなでいろいろ考えようねというような書き方がよい）や、災害時の外部との連携（災害協定）、被災した近隣自治体への救援についても追記してほしい（稲垣先生）
1 1	NPO の記載について、半角・全角が統一されていない。また、途中で改行されているのはよくない（委員）	・半角・全角を確認し、統一する。 ・途中改行がないか確認する。
1 2	東日本大震災を経験したことから、 <u>単位自治会ごとの自主避難体制づくりも進みました。</u>	東日本大震災を経験したことから、 <u>単位自治会ごとに自主防災組織が立ち上がり、自主避難体制づくりが進みました。</u> （委員）
1 2	村の自慢の一つにもなっています。	表現を変えた方がよい。 ・今後の活動の大きな力になりました。 ・村の安全対策の一つにもなっています。

【ご意見・序論】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
1 0 ～ 1 3	・フォーマルサービスとインフォーマルサービスの連携 ・東海村で活躍する様々なインフォーマルサービス（図）	・フォーマルとインフォーマルは区別が曖昧なところがある。第2次計画ではそれを曖昧な書き方で表現していた。第3次計画では、分かりやすく図にしたのだが、それによって間違いが出てきている。 ・「フォーマル」とは「法制度に乗かった」ということ。その意味では、民生委員・児童委員は民間人だが民生委員法があるため「フォーマル」である（「無給の国家公務員」） ・村社協も民間組織だが、「社会福祉法人」という社会福祉法に定められた組織であるため、「フォーマル」である。官立か民営かでは「フォーマル」「インフォーマル」の区別は付けられない。 ・村社協は、法律の中で認められた権限の中で、「住民活動の支援」という仕事をしている「フォーマル」組織である。 ・地区社協、自治会、介護保険事業を行なっている NPO 法人等は、グレーゾーンである（「セミフォーマル」と呼ぶ？） ・今は「フォーマル」と「インフォーマル」が明確に分けられなくなっている。 ・地区社協による支援は元々「インフォーマル」だが、地区社協が徐々にフォーマル組織に育ってきているため、現在ははっきりとしない状況である。 ・稲垣先生と事務局で検討することになった（稲垣先生）
1 4	地域に生まれたセーフティネットワーク	・文言整理が必要 ・一般的なネットワークシステムをセーフティネットワークに組み込む表現については、検討が必要である（稲垣先生）
1 5	<u>特定の人の</u> 1 0 0 歩より多くの人の 1 歩を！	・<u>一部の人の</u> 1 0 0 歩より多くの人の 1 歩を！ ・<u>誰か一人の</u> 1 0 0 歩 ・1 人の 1 0 0 歩より 1 0 0 人の 1 歩を！ - 地域福祉は、住民全員がやらなければダメであるということを言いたい（委員）
1 5	各圏域で提供されるサービス及びそのつながりのイメージ（図）	・矢印の色の違いがわかりにくいので、色味を調整することになった。 ・民生委員・児童委員はフォーマルなので、白に変更することになった。

【ご意見・序論】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
16	今後の5年間で村が行なう施策（図）	・「住民が集いやすい地域の拠点づくり」「住民への効果的な情報宣伝活動のあり方検討」についても施策として挙げられているのだから、掲載してほしい。 ・インターネットは、見る人と見ない人の格差が大きい情報宣伝ツールである。特に生活困窮者は家にパソコンがなく、インターネットも繋がっていないため、情報宣伝活動のあり方は再考が必要である。 ・インターネットでは、若者は見たいものしか見ない（稲垣先生）
17	CSW と生活支援コーディネーターの図	CSW の支援対象に「子ども」が抜けているので追加してほしい（稲垣先生）
18	協働による地域福祉の推進に向けて	「協働」と「連携」は間違えやすい。協働には幾つかのパターンがあるので、パターンの例示と、その具体例として村内の取組みを挙げてはどうか（稲垣先生）
20 ～ 21	「アナタ」という表記について、カタカナ表記の部分とひらがな表記の部分がある。	「あなた」に統一する。

【ご意見・第1部】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
25	核家族化，多世代化	核家族の多世代化
26	「これまでの計画の概要」に第3次地域福祉計画の策定ことは記載しなくていいのではないか（委員）	タイトルを「これまでの計画の概要と本計画の関連」に変更することになった（委員・稲垣先生）
26	木のイラスト	「ホップ・ステップ・ジャンプ（三段跳び）」をイメージさせるイラストに変更してほしい（委員）

【ご意見・第1部】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
29	【地域福祉計画の位置づけ】 「村民の叡智が生きる…」の「叡智」に注釈を入れてほしい（委員）	・注釈を入れることになった。 ・第5次総合計画策定時に、「住民の叡智というのはとても豊かなものである」という意見があり、検討のうえ、難しい漢字の「叡智」を使うことになった経緯がある。 ・難しくて引っかかる言葉を敢えて使うことにより、読者の関心を喚起する狙いがある（稲垣先生） ・色味が暗いので調整する。
30	数値の記載が統一されていない（小数点第2位以下まで記載されているものと、そうでないものがある）	・数値は半角で統一する。 ・数値は最後にまとめて確認する。
31 ～ 33	グラフ	・各グラフに番号を振った方がいい（稲垣先生）
34	・「人づくり」の問題 ・活動者の関係性や活動内容の重複の問題	・「人づくり」の課題 ・活動者の関係性や活動内容の重複の課題 タイトルに「課題」とあるので、各項目も「課題」とした方がよい（委員）
35	地域福祉を取り巻く国の動向 生活困窮者自立支援制度の紹介	・この制度は実施主体を「福祉事務所設置自治体」としているため、東海村は直接実施していない、後発自治体になってしまっている。そのため、「今後は村独自の事業を生み出せるよう、みんなでがんばろう」といった書き方にした方がいい（稲垣先生）
35 ～ 38	地域福祉を取り巻く国の動向	・全体的に文章が長いので読んでいて疲れてしまう。読みやすさに配慮した書き方をしてほしい（委員）
39 47	色合いが濃く、文章がよみづらい	・背景を差替え、文章を読みやすくする（全体意見）

【ご意見・第2部】

ページ 番号	指摘箇所・ご意見	修正後の記載内容・対応
60	基本目標体系を評価する際の3つの視点	・地域福祉は元々、これらの3つの視点を評価軸としていたが、これまでは一般企業の業務管理と同じ方法で地域福祉計画の評価を行なっていて、これらの視点は意識されてこなかった。 ・地域福祉計画の評価では、タスクゴール（施策の達成度）のほかに、プロセスゴールやパートナーシップゴールを取り入れ、「住民参加で住民ニーズをどこまで汲み上げたものが、どのレベルまでできたか」という定性評価をしなければならない。 ・この記載では、3つの視点についての説明が足りていないので、わかりやすい解説を加えた方がいい。 ・3つの視点をを用いて各施策をどう評価するのかを具体化しておく、今後、第4次計画を策定する際に行う本計画の評価作業が楽になる。 ・企業型の業務管理に学びながらも、本来社会福祉が持っていた評価軸を大事にしてほしい。定量評価と定性評価を合わせて初めて妥当な評価になる（稲垣先生） ・読者が理解しやすいような表現方法に努めてほしい（委員）

④その他

○委員メッセージの提出期限について

12月21日(月)から変更し、12月10日(木)とさせていただいた。

(5) 閉 会